

果樹を加害する果樹カメムシ類の多発生が続いています ～引き続き園内への飛来に注意して下さい～

[発表の内容]

作物名 : 果樹類 (ナシ、カキ、リンゴ、ブドウ等)

害虫名 : 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 7月上旬現在、チャバネアオカメムシ (写真1) の予察灯への総誘殺数※ (本年値 1,604 頭、平年値 289 頭)、直近1か月の誘殺数※ (本年値 486 頭、平年値 83 頭) とともに平年より多い (図1)。
 - ② 7月上旬現在、ツヤアオカメムシ (写真2) の予察灯への総誘殺数 (本年値 668 頭、平年値 30 頭)、直近1か月の誘殺数 (本年値 336 頭、平年値 17 頭) とともに平年より多い (図2)。本種は暖地性で大型のカメムシであり、例年発生が少ないが、本年は発生が多い。
 - ③ 7月上旬現在、クサギカメムシ (写真3) の予察灯への総誘殺数 (本年値 38 頭、平年値 7 頭)、直近1か月の誘殺数 (本年値 31 頭、平年値 6 頭) とともに平年より多い (データ省略)。
- ※総誘殺数は (4月第1半旬～7月第1半旬)、直近1か月の誘殺数は (6月第2半旬～7月第1半旬)

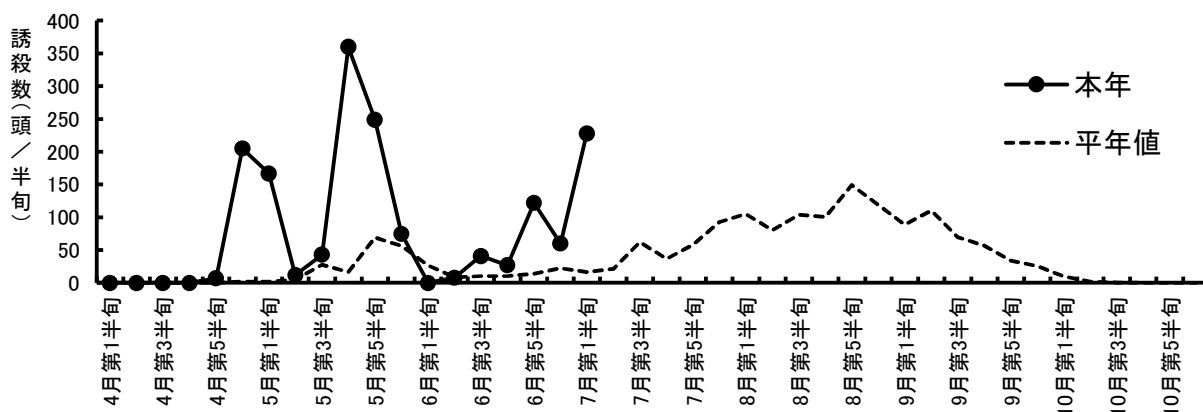


図1 チャバネアオカメムシの予察灯 (かすみがうら市) への誘殺数

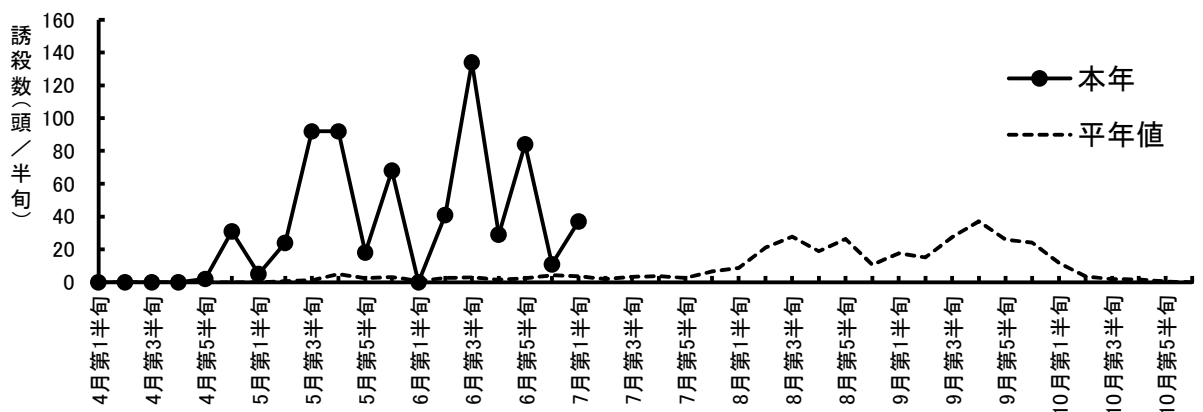


図2 ツヤアオカメムシの予察灯 (かすみがうら市) への誘殺数

〔防除対策〕

- ① 多目的防災網（目合い 6mm または 9mm クロス等のネット）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う（表 1 参照）。いずれの薬剤も、直接虫体にかかれば殺虫効果は高い。
- ③ 有機リン系およびピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くおそれがあるので注意する。
- ④ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって大きく異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- ⑤ 今後の発生状況については、病虫害防除所ホームページを参照する。

(<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/index.html>)

表 1 カメムシ類に登録のある主な薬剤 (令和 6 年 7 月 1 日現在)

作用機構分類 (IRACコード) 系統名	薬剤名	ナシ	カキ	ブドウ	リンゴ
1 B 有機リン系	スミチオン水和剤 40	○	○		(○)
2 B フェニルピラゾール系	キラップフロアブル		○		○
3 A ピレスロイド系	アグロスリン水和剤	○	○		
	スカウトフロアブル	○	○		○
	テルスターフロアブル	○	○		○
	ロディー水和剤	○	○		○
4 A ネオニコチノイド系	アクタラ顆粒水溶剤	○	○		○
	アドマイヤー水和剤	○	○		
	アルバリン顆粒水溶剤／ スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○
	ダントツ水溶剤	○	○	○	○
	バリアード顆粒水和剤	○			○
28 ジアミド系	テッパン液剤	○	○	○	○

注) ・ ○ : 当該作物に農薬登録あり。ただし、各薬剤の収穫前日数には十分注意する。

- ・ (○) : スミチオン水和剤 40 は、リンゴ（旭種とその近縁種）では薬害が発生のおそれがあるので注意する。
- ・ テッパン液剤は、多発生時に使用する場合、効果が劣ることがあるので注意する。
- ・ ブドウでは、栽培状況により果粉溶脱や汚れのおそれがあるため、農薬ラベルに書かれた使用上の注意事項及び使用方法を必ず確認する。
- ・ 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。また、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意する。



写真1 チャバネアオカメムシ



写真2 ツヤアオカメムシ



写真3 クサギカメムシ